

守山市総合計画審議会 議事録（要旨）

開催日時：令和6年9月3日(火)午後6時30分～午後8時40分

開催場所：守山市役所2階防災会議室

出席者：

（委員） 杉岡秀紀（WEB参加）、辻田素子、石田俊治、大崎裕士、上村瑠美、山本なお栄、石上僚、岩崎優希、北村妙子、高津真一、小森慎也、佐子友彦、根木山恒平、桃谷香葉、村田和哉、山崎いずみ

（守山市等） 森中市長、福井副市長

総合政策部 木村部長、稲田次長、森口次長

総合政策部企画政策課 中島課長、田中参事、北條係長、大寄係長、荒川主任
株式会社地域未来研究所 田淵技術顧問、貞松主任研究員

1. 開会

- ・会議の成立について

2. 市長挨拶

3. 会長・副会長の選出

- ・委員自己紹介
- ・審議会の公開について
- ・会議の傍聴について
- ・会長、副会長の選出

4. 会長、副会長挨拶

- ・会長 辻田 素子委員
- ・副会長 石田 俊治委員

5. 諮問

守山市長期ビジョン2035の策定について

6. 議題

(1) 長期ビジョン2035策定方針について

意見なし

(2) 守山市の現況動向および人口推計について

大崎委員	今日の議題は、長期ビジョン2035を決めていこうということで、その中で10年後の都市像、その中に将来の人口目標があり、目標の人口維持のためには都市計
------	--

	<p>画なりをどうするかという議論になるかと思います。</p> <p>人口推計の計算方法の説明も大事ですが、多くの意見をもらうために、ここをポイントに議論してほしいと投げかけを言ってもらえればと思います。</p>
石上委員	<p>今の守山っていいなと思っているので、ここから無理やり人口を増やしていくべきなのか、駅前を活性化していくべきなのかを今後議論したいと思っています。</p>
石田委員	<p>市全体を考えると、駅周辺の市街化区域だけでなく、バランスのとれた開発、定住化の促進策を考えてもらえればどうかと感じました。</p>
佐子委員	<p>昼間人口比率からみると、守山市は寝に帰るまちということが言えると思いますが、日中外に出て稼いだ給料を、どこで消費しているのかも大事で、消費をどこでしているかが調べられたはずなので、そういった部分も併せて検討いただければと思います。</p>
桃谷委員	<p>気になっているのは、市内に出産できる産院がなくなってしまったことで、近隣市に良い病院もあるとは思いますが、妊娠中に上の子がいたりすると、自宅から近い方が通いやすく、安心感ができるのではと思います。</p> <p>市として誘致なども考えていただければと思います。</p>
守山市	<p>市としても最大5千万円の補助金を用意して誘致をしていますが、分娩のためには24時間365日の対応が必要で、ただでさえ少ない産科医を何名も確保する必要があり、ハードルが高い状況です。</p> <p>ハードルは高いが引き続き誘致に向けて取り組んでまいります。</p>
北村委員	<p>児童・生徒が増えている学校もあれば、減っている学校もあり、市内に13小中ある中で地区により差があると感じています。</p> <p>増えていくと空き教室が少なくなるなど、学習環境にも影響します。また、転居による転入の場合、お母さん自身も慣れない土地での子育てということで孤立してしまうこともあり、不安感を抱えている保護者も少なからずおられるということを実感しています。</p>

(3) 市民アンケートについて

山崎委員	<p>中学生アンケートで多く出てくるキーワードが「安心・安全」ですが、社会的な不安感が強い世の中で、子どもたちも将来に対する不安を感じているというのがこのアンケートから読み取れるのではと思いました。</p> <p>子育ては産んで終わりではなく、中学生・高校生になってくると、不登校や自傷行為、いじめ問題等、相談しにくい内容も多くなります。</p>
村田委員	<p>市民アンケートでは、「起業などの新しい事業にチャレンジできる環境が整っていると感じますか」という数字が低くなっていますが、守山市は起業家のまちという形で推進されています。</p> <p>子どもの教育分野において、チャレンジ精神や失敗してもどんどんチャレンジできる環境を整え、また、大人になってもチャレンジしている人を見ると、子ども</p>

	<p>たちもチャレンジしようかなと感じることができるようになると思います。</p> <p>起業のまちの取組みに子どもたちと一緒にチャレンジできる部分をもっとあればと思います。</p>
山本委員	<p>昼間人口比率が 89.99 ということでしたが、民生委員が見守りをしている中で問題となっているのは、家族はいるが昼間ひとり暮らしの高齢者が多くなっていることです。</p> <p>今私たちが抱えている中で一番の問題は、8050 問題だけでなく、7040 問題が多いことで、親世代の高齢化で引きこもりの子どもたちが、果たして今後ひとりで自立して生活できるのだろうかということです。社会福祉協議会でも窓口を設置し対応いただいています、そういう相談窓口があることを親に知らせないとならない。</p> <p>また、社会潮流としてヤングケアラー問題が書かれていますが、地域では、働いているケアラーが仕事と介護の間で大変苦勞しておられる。この辺りもどこかに課題として入れていただきたいと思います。</p>

(4) ワークショップについて

杉岡委員	<p>中学生の意見はアンケートでよく把握できていると思いますが、気になるのは高校生です。中学生と高校生ではまちに対する意見も変わってくるので、ワークショップなどで地元の高校生が参加できる仕掛けを是非検討してほしいと思います。また、ワークショップに参加できる方は限られますので、随時計画への意見を出してもらえようPRを行ってほしいと思います。</p> <p>更に、3年ごとに検証と書かれていますが、1年ごとにローリングしなければいけない時代に入っている、策定後も市民の意見を聞き続けられるようなことを意識しながらワークショップを設計されると充実するのではないかと思います。</p>
------	---

(5) その他

辻田会長	<p>今回事務局から資料を送付された際に、「守山の 10 年後に期待すること」というのが宿題として出されていたと思いますので、各委員から 1 分程度で発言いただければと思います。</p>
大崎委員	<p>ひとりでも多くの市民が共有できる計画になればいいなと思います。</p>
上村委員	<p>この 10 年ほど幼稚園、小学校、中学校と PTA をしているので、次回は子どものことをお話できればと思います。</p>
山本委員	<p>地域の交通を考えると、私の住む学区でもバス停がいくつなくなっています。市でも代替交通を考えておられますが、毎日の生活をどうするかを考えた時に、1 年ごとのローリングで計画の見直しをしていただけるとありがたいと思いま</p>

	す。
石上委員	自分の子どもたちが、守山をふるさととして誇れるまちになるといいなと思っています。
岩崎委員	守山では 90 歳の高齢者も軽トラを運転しているなど、車がないと生活できない状況です。ひとり暮らしで、車が運転できなくなった時に交通面が不安だと思います。地方都市部ではどこでも交通面が課題だと思います。自動運転なども進展していると思うので 10 年後は免許がなくても老人が暮らせるまちになるといいなと思います。
北村委員	学校教育の現場では様々な課題がありますが、守山市でも不登校の児童生徒数が増えてきており、長期休みの子どもが一步外へ出ようと思うとそれなりの時間がかかりますので、新たな不登校の子どもを生まないようにと頑張っているところです。そういった子どもたちが、10 年後に社会と何らかの形でつながってられるような守山になるといいなと思います。
山崎委員	大勢でわくわくするアイデアを出すのもいいが、本当に隣で困っている人、自分のことではなく、こういうことで困っている人がいるんだよと、声なき声をどう拾い上げて反映していくか。それがみんなにとって Happy なまちづくりになるのではと思います。 子どもが未来を描くのはもちろん良いことですが、勉強ができなくても、頑張らなくても、今このままでもあなたはここにいていいというメッセージを、まち全体が子ども温かく見守る。子どもたちが自信を持てるまちになるといいなと思います。
村田委員	守山が好きで戻って来たので、そういった子どもたちがあふれる世の中にしたいと思っていますし、大人が輝いて、このまちが好きだと思えるような、郷土愛にあふれるまちを、様々な分野で掛け合わせてつくってほしいと思います。
桃谷委員	子育て環境という立場からになるが、5 年前のアンケートでは上がっていなかった子育て環境をさらによくすることが今回求められています。 子育て支援団体が増えてきていますが、頑張っているけど知られていない現状があるので連携を深め、市でも認定を行うなど、市民に広くそういった活動が見える施策を行っていただくと、子育て環境から市民活動が活発になっていくのではないかと感じています。
根木山委員	村田製作所という世界のトップ企業の誘致や元トップサッカープレーヤーがつくるチームなど、キラびやかなところがありつつ、こぼれ落ちていくところがなく誰でもいられるというところの両方のバランスが大事だと思いましたので、10 年後にはそういう守山が少しでもつくれたらいいと思いました。
佐子委員	様々な事情で今は支援が必要な人たちが、今後支援する側にまわる社会になっていけばいいと思います。そういった取り組みが郷土愛につながる。この地域の人に育ててもらった、支えてもらったという思いが、きっとこのまちのために次は私がという思いにつながると思うので、そういったまちになればいいなと思いま

	す。
小森委員	<p>車がないと生活ができないという声をよく聞きます。運転手の担い手不足でバスも、終バスを早めたり、減便する状況が起こっています。</p> <p>守山市民ホールにも公共交通で来てくださいと言ってもバスの本数がない。最近では高齢者向けのイベントをやっても、高齢者が市民ホールまでなかなか来れないため、参加者が集まらない状況があります。</p> <p>また、守山市文化協会においては、会員減少で守山の文化の衰退が起こり危機的な状況となっており、若者の文化参入にも切り口を考えながら取り組んでいるところです。</p>
高津委員	<p>G Sユアサや村田製作所の進出の話がありましたが、雇用機会を確保することも大事だと思っています。10年後やその先の長い期間にわたって雇用機会を創出するというので、市にはインフラの整備や事業のやりやすい環境づくりをお願いしたいし、そういったことも議論できればと思います。</p>
石田副会長	<p>理想的なことを申し上げますが、日本の将来を担う子どもたちが元気でいきいきと守山市で暮らす、子どもが暮らしやすく生きがいを感じるまちづくりができれば理想と思います。</p>
杉岡委員	<p>守山の関係人口として、守山のファンのひとりとして参加しています。住民だけでなくファンの人口も、また、外国人も千人くらいいるので、日本人だけでなく外国人も、この「も」がキーワードになるのではと思います。</p> <p>たまたまですが、守山市も「も」から始まるまちなので、いろんな「も」を発見できるまちになってほしいと思いました。</p>
辻田会長	<p>皆さんの話をお聞きして、今までは人口増で右片上がりの中、子育てをキーワードにすれば、Happy に感じる人が多かったですが、これからは高齢者や外国人、交流人口など、目を向けなければならないテーマも多く、かつ人口が減っていく中で財源をどう確保するのかという問題もあり、今回のビジョンは、難しい舵取りを要求されることになると感じました。これからどうぞよろしくお願いいたします。</p>

7. その他

- ・次回は11月中旬から下旬に開催とし、後日日程調整を行う。

8. 閉会